伊太祁曽神社

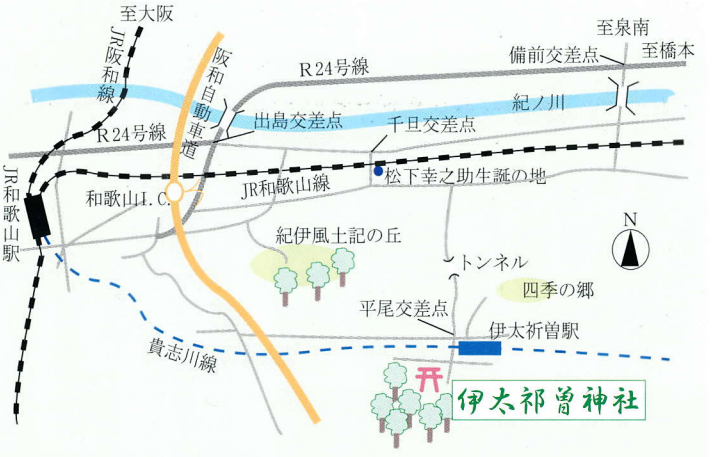
紀伊国祖神（木の神、いのち神、浮宝の神）

祭礼

歳旦祭　一月一日（年の初めのお祭り）
元始祭　一月三日（仕事始めのお祭り）
卯杖祭　一月十五日（厄よけと農作物の豊凶占い）
紀元祭　二月十一日（建国を記念するお祭り）
祈年祭　二月十九日（今年の豊作を祈願するお祭り）
木和祭　四月の第一日曜日（木に感謝するお祭り）
昭和祭　四月二十九日（昭和天皇を顕彰するお祭り）
門宮祭　六月一日（境内社櫛磐間戸神社のお祭り）
祇園祭　旧六月七日（境内社祇園神社のお祭り）
茅輪祭　七月三十日・三十一日（大祓　わくぐり　厄よけ神事）
御井社祭　十月一日（命の水の神社のお祭り）
亥の森祭　旧十月初亥日（旧社地にある三生神社のお祭り）
例祭　十月十五日（神輿渡御・稚児行列がおこなわれる）
神嘗祭遥拝式十月十七日（伊勢神宮の神嘗祭を遥拝）
新嘗祭　十一月二十三日（新米をお供えし感謝するお祭り）
氣神祭　十二月十二日（荒御魂を祀る氣生神社のお祭り）
天長祭　十二月二十三日（今上陛下のお誕生日のお祭り）
大祓　十二月三十一日（師走の大祓　半年の罪穢を祓う）
除夜祭　十二月三十一日（一年最後のお祭り）
月次祭　毎月一日

摂末社

氣生神社　五十猛命の荒御魂
蛭子神社　蛭子命（氏子区域内の二十二社を合祀）
祇園神社　素盞嗚尊・天照皇大神・埴安比売命
櫛磐間戸神社　櫛磐間戸命・豊磐間戸命
御井社　彌都波能売神・御井神
丹生神社　天照皇大神・丹生津彦命・丹生津姫命
三生神社　五十猛命・大屋津姫命・抓津姫命



大阪（JR天王寺から紀州路快速で約60分）**関西空港**（リムジンバスで約30分）いずれも**JR和歌山駅乗換**/わかやま電鉄貴志川線伊太祈曽下車・南へ徒歩５分**阪和自動車道**（和歌山インターを出て和歌山市方面へ、最初の信号を左折20分・カーナビでTEL0734780006）

伊太祁曽神社

〒 640-0361　和歌山市伊太祈曽558
電話（073）478-0006番　FAX（073）478-0998
http://itakiso-jinja.net/

伊太祁曽神社
境内案内

○いのちの水

境内の山中に井戸があり、清水が湧き出ています。病気平癒を祈願する方はこの水を頂いて病人に飲ませると心身の爽やかさと活力を得る事ができるという、いのち神の信仰があります。

○霊石お猿石

古くから境内にあり、その霊験が著しく参詣者は本殿参拝の前に石に手をあてて心気を鎮めます。特に泉州方面の方々の信仰が篤く、首より上の病に霊験が著しいと言われています。

○木の俣くぐり

ご神木の一部で、大屋毘古神が木の俣を利用して大国主神を助けた神話にちなみ、この木の穴をくぐることにより災難をよけることができると言われています。

○祇園神社

境内南方の山中にあり、本殿ご祭神の父神の素盞嗚尊と天照皇大神と埴安比売命をお祀りしています。（氏子区域内の祇園神社を合霊）

○古墳

横穴式の石室古墳で、奈良時代の初期（８世紀初）のものといわれ、神社の鎮座の年代とほぼ合致します。
紀ノ川の南側に「風土記の丘」といわれる古墳群が存在し、氏子区域の平尾にも集落跡が発掘されており、この地が早くから開けていたことがわかります。

○ご神木（一位樫）

樫の木の中で最も大きくなることからこの名前がある。神池のほとりに立ち推定樹齢５００年とも云われ、樹高約２５ｍ、胸高周囲約3.5ｍである。

伊太祁曽神社のご案内

一　お祀りしている神様

五十猛命（大屋毘古神とも称する）
大屋津比売命（左脇殿　向かって右）
都麻津比売命（右脇殿　向かって左）

一　ご鎮座の場所

和歌山市伊太祈曽五五八番地

一　ご鎮座の由来と沿革

当神社のご鎮座について具体的な年号の初見は「続日本紀」の文武天皇大宝二年（西暦七〇二）です。

神代のことはよくわかりませんが、当神社はこの地に鎮まります以前には、日前神宮・国懸神宮（通称日前宮）の社地にお祀りされていたようです。日前宮のご鎮座が垂仁天皇十六年（西暦紀元前十四）と伝えられていますので、そのころ今の秋月（日前宮鎮座地）より、この山東（現伊太祈曽）に遷座せられたようです。しかし、その地は現在の社殿のある場所ではなく、南東に五〇〇メートルほど離れた「亥の森」という所でした。今も田んぼの中にこんもりした森が残っており、いかにも神奈備の様相を呈しています。毎年旧暦十月初亥日に「亥の森祭」が行われています。

延喜式神名帳に所載の神社（式内社）で、明神大・月次・新嘗・相嘗に預かると記載されており、平安期には朝廷の崇敬が篤い大社であったことがわかります。

亥の森（三生神社）

奥宮（丹生神社）

紀伊国（木の国）の一の宮として朝野の崇敬を受け、明治十八年国幣中社に列格し、大正七年に官幣中社に昇格しています。

昭和九年の台風により社殿が甚だしく損壊しましたが、畏くも御内帑金のご下賜により内務省直轄の工事で復興に着手、昭和十二年三月に竣工しました。

以後、屋根の葺替工事・常盤殿の改修・ときわ山造園・神池の改修等の境内整備を経て今日の神社があります

一　樹木の神・緑化の神としてのご神徳（木の神）

ご祭神の五十猛命は素盞嗚尊の御子神様で、日本書紀巻一（神代上）によれば、父神に従って高天原から大八洲国（日本）に天降られる時、多くの樹木の種を持ってこられました。最初に新羅国（韓国）に行かれましたが、この国には植えないで、大八洲国（日本）に持ち帰り、筑紫（福岡県）から日本全土に木の種を播き植林されました。そのおかげで日本の国は緑の豊かな山々を擁し、空青く水清き森林の育成がなされました。

和歌山県は、木の神様（五十猛命）がお鎮まりの国というので「木の国」と呼ばれていましたが、奈良時代に国の名前は

二文字にして雅字を充てるという勅令が出されて「紀伊国」になりました。伊太祁曽神社が紀伊国(紀州)の祖神といわれる所以です。

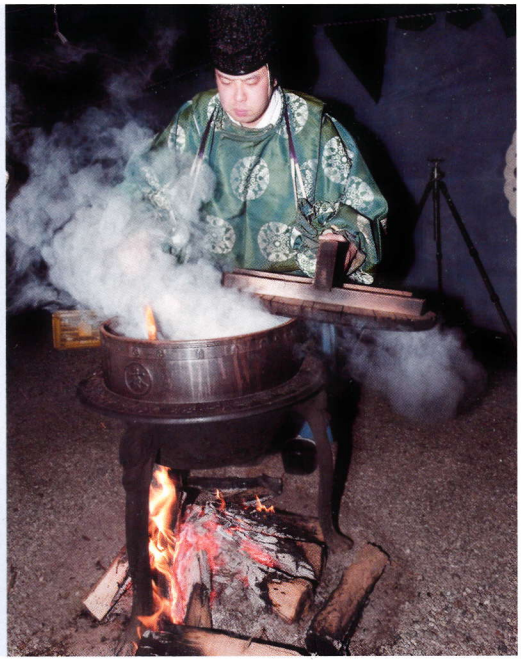
・天なるや八十の木種を八十国にまきほどこし神ぞこの神
・山々の木々の栄えを木の国の栄えと守る伊太祁曽の神

(本居　太平)

このようなご神徳の故に木材業や山林業に拘わる方々の崇敬がきわめて篤く、材木の主な集産地にはご分霊をお祀りした「伊太祁曽神社」が祀られています。四月(第一日曜日)の木祭りは全国からの崇敬者で賑わいます。

一　厄よけ・病難救済のご神徳(いのち神)

大国主神が八上比売をめぐって八十神に命を狙われたときに、母神の刺国若比売が「このままではあなたは八十神に殺されてしまいます。木の国(紀伊国)の大屋毘古神(五十猛命)のところへ逃げなさい」と急がせます。大国主神は八十神に追われ矢を射かけられますが、大屋毘古神の助言により、木の俣をくぐりうまく逃れて助かります。(古事記神代巻上)



卯杖祭(粥占いの神事)一月十四日夜
米と餅、小豆で粥を炊き、長さ一尺程の竹を束ねてその中に沈め祈願の後に引き上げ、竹筒の中の粥米の入り具合でお米と農作物の豊作を占います。

茅輪祭(わくぐり)　七月三十日・三十一日

神輿渡御　十月十五日

大屋毘古神が大国主神の命を八十神から救うという神話から災難よけの信仰が起こり、伊太祁曽神社には厄よけ祈願・病気平癒祈願等に多くの参拝者がお越しになります。

特に一月十五日の卯杖祭は厄よけの祭典であり、厄年の方が多く厄よけ祈願の参拝をされます。

一　大漁・航海安全のご神徳(浮宝の神)

素盞嗚尊は「韓郷之嶋(中国大陸)には金銀の財宝があるが、吾児所御国(日本)に浮宝(船)がなければ運ぶことができないので良くない」と言われ、鬚髯を抜くと杉になり、胸毛を抜くと檜となり、尻毛は被となり、眉毛は櫲樟となりました。そして「杉と櫲樟は浮宝(船)の材に、檜は社殿を造る材に、被は蒼生の奥津棄戸(棺桶)に利用しなさい」と言われました。

素盞嗚尊の御子神の五十猛命とその妹神の大屋津比売命・都麻津比売命の三柱の神様は、全国に木の種を播きほどこして紀伊国にお鎮まりになりました。と日本書紀巻第一(神代上)に書かれています。

当時の交通手段は、陸上は徒歩、海上は船によるものでした。大量輸送や食物の確保(漁業)のために船は大切にされ、その大切な船は木(杉や櫲樟)で造られ「浮宝」と呼ばれました。海に拘わる人たちは船の守り神として木の神様を崇め、航海の安全も祈るようになりました。今も大阪湾から紀伊水道の沿岸の漁師の方々の信仰が篤いのはそのためです。

海上交通の手段である船の航海安全のご神徳の高い五十猛命は、自動車が普及すると陸上交通の神としても崇められ、今日では、多くの方が車の交通安全を祈願されます。